

## 第9回 日本橋みちと景観を考える懇談会の論点

資料1

【平成18年7月21日開催（座長：中村英夫学長）】

### 【街づくりの方向性】

- ・ プロジェクトの推進に当たっては、地域の街づくりが先行し、受益の一部還元などを行うことで高速道路の移設を促すという、民間を主体とした新しい進め方を基本として整理してはどうか。
- ・ 街づくりの方向性として、川沿いの土地を低層・低容積化し、オープンスペースを創出。首都高の導入空間も一体的に確保することが望ましい。
- ・ 低層・低容積化に伴う容積は、隣接あるいは離れた敷地へ移転し、それに伴う受益の一部を道路移設の用地費・用地補償費の低減等に還元する手法を提案したい。
- ・ この新たな手法を推進するためには、街づくり協議会等の推進体制構築が必要と考える。
- ・ 現在、既に建設が見込まれているビルがあるが、先行して移転容積を上乗せするなど、着手できることから進めておくことも必要ではないか。

### 【首都高速道路の導入空間】

- ・ 日本橋みち会議では、環境・景観・交通面から考慮した結果、浅い地下案が有力とされており、また、川・みち・街づくり研究会では、街づくりの観点から、浅い地下の北-南案が有力とされたところ。
  - これらを踏まえ、当懇談会では、首都高の移設空間として、浅い地下の北-南案が望ましいと考える。

### 【地元からの意見】

- ・ 昭和43年、橋を綺麗に保っていこうということで、名橋日本橋保存会がスタートした。
- ・ これまでも一生懸命、橋に光をと思い取り組んできたので、最近の動きを頼もしい機運と感じている。
- ・ 江戸一の繁盛したこの街に、もう一度往事の賑わいを取り戻すため、精一杯努力し、皆で汗をかくことを誓い合った。
- ・ 地元として、移転や地元の人達との問題の中で、汗をかき、努力して、自分達しかできない部分をこれからうんと汗をかいていこうと考えている。
- ・ 容積移転については、必ずしも1対1で上手くいくとは限らないので、容積移転や再開発のコーディネートが実務的に非常に重要と考える。
- ・ 広い意味で都市生活の場に川を呼び戻すことが、このプロジェクトの目的と考えている。こうした観点から、街づくりとあわせて首都高の地下化を進めて頂きたい。ここ（日本橋）から進めていくことは、これからの新しい街づくりに繋がる第一歩と考えており、実現に向け努力したい。
- ・ 日本全国から「なぜあそこに数千億円」という話もあり、地元として相当の努力をしなければいけないと考える。例えば、街づくりを通じて用地費、移転補償費を限りなくゼロにするくらいの姿勢で、地元の方とやっていこうと思っている。
- ・ 容積移転は税制問題も含め、仕組み作りを国で検討して頂きたい。